

国際オートメカニク科			2027年度 授業計画			
時 期	2年後期	単元	実習	教科名	車両実習 6	
科 目	自動車検査作業	教科書等 持参品			発行日	2026年2月26日
総時限	28				教科 担当	坂口 正憲
総時間	44.8					石井 隆幸
単 位	1					
1. 指導教員の実務経験 該当 非該当 自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。						
2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入） 1. 電気の回路図を読み取ることができる。 2. 不具合現象の確認からその回路を特定できる。 3. 故障診断器を使用し不具合箇所の絞り込みができる。 4. 測定結果から不具合部位の特定ができる。 5. 安全にドアレギュレーターの脱着ができる。						
3. 授業の到達目標（何を理解し何ができるようになるのか） 1. お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。 2. テスターを正確に使いこなすことができる。 3. 電気回路図から電気の流れを読み取る。 4. 不具合現象から正常時の電気の流れを読み取り各点の正常電圧が分かる。 5. 測定結果から不具合部分を特定できる。 6. 故障診断器を使用し、データモニタ・アクティブテストを実施系統を判断できるようになる。 7. ドアレギュレータ・ドアガラスを安全に取り外すことができる。 8. 確実にドアレギュレータを取り付け、作動確認ができる。						
4. 学習評価（期末試験での主な試験項目） ・学科履修試験とレポート・ブリック採点で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。 作業の注意点を○×問題、又、レポート評価により100点満点で評価する。 ・合格点：60点以上 80点以上：優 60点以上：良 60点未満：不可 ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。 再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。 ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。						
5. 準備学習 電気配線の色、カプラーのオス、メスなど1年で習ったことを見直しをする。						
6. 学修時間と単位 本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。 1単位の修得に必要な学修時間の目安は、30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間である。						

国際オートメカニク科

2027年度 授業計画

時 期	2年後期	単元	実習	教科名	車両実習 6	
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	授業概要説明				ジューク（F15）	5
2	A班：E13 ドアレギュレータ脱着練習 B班：F15 ドアレギュレータ脱着練習				ノート（E13）	5
3					養生テープ	適量
4					作業台	10
5					パーツキャディー	10
6	A班：F15 ドアレギュレータ脱着練習 B班：E13 ドアレギュレータ脱着練習				ウエス	適量
7					フェンダーカバー	10台分
8					グリルカバー	10台分
9					足マット	10台分
10	A班： E13ヘッドライトシステム概要				ハンドルカバー	10台分
11	電気の流れを回路図を用いて確認				シートカバー	10台分
12	車両を用いて正常電圧の測定				ESM（PC）	3台
13	修理書を用いた故障診断の実施方法にての実施				故障診断器（コンサルト）	5台
14	故障診断器を使用しての絞り込み作業の実施方法（アクティブテスト）				電導師	10台分
15	↑					
16	ヘッドライト故障診断（練習）					
17	↑					
18	ヘッドライト故障診断 実技試験					
19	B班： F15PWシステム概要、フェイルセーフ、の確認					
20	電気の流れを回路図を用いて確認					
21	メインSW入出力値の測定					
22	エンコーダについて理解する、車両を用いて正常電圧の測定					
23	↑					
24	パワーウィンドウ故障診断（練習）					
25	↑					
26	↑					
27	パワーウィンドウ故障診断 実技試験					
28	総合復習					
※	実習試験					

※ 期末試験は授業時間に含まない